

2020年6月24日

日本国総理大臣

安倍晋三 様

よくご存じのように、この8月で、米国が世界で初めて核兵器を使用し広島・長崎の両都市を壊滅させ25万人以上の命を奪ってから、75年を迎えます。広島の被爆者の一人として、また、2017年にノーベル平和賞を受賞した核兵器廃絶国際キャンペーン（ICAN）で活動する者として、この手紙を書いております。被爆75年にあたり、私は世界すべての国の元首また政府の長に対して核兵器禁止条約に批准することを求める手紙を書いてきました。当然ながら、唯一の戦争被爆国である日本に対しても同じことを求めます。

昨年10月、天皇陛下の即位の礼に出席するため私が東京を訪ねた際、総理はご多忙だったため、直接お会いできなかったのは残念でした。今後、総理とお会いして核兵器廃絶のために日本に求められるリーダーシップについて話し合う機会を得られることを期待しています。核兵器という放射能の暴力が何をもたらすかを詳細に知る者として、そのような話し合いをさせていただきたいと思います。

私は13歳の生徒として、一発の原爆によってわが街広島が閃光を浴び、嵐のような爆風で破壊され、摂氏4,000度の熱線で灰となり、放射線で汚染されるのを目撃しました。

夏の明るい朝は、きこ雲が立ち上る中、煙とほこりによる暗がりへと一変しました。死傷者たちが地面を覆い、傷ついた者たちは水をくださいと強く懇願しながら、何の手当も受けられませんでした。火の海が街を覆い、焼かれた肉のにおいが一面に漂っていました。

爆心地から約1.8キロで倒壊した建物の瓦礫のなかから、私は奇跡的に助け出されました。同じ部屋にいた私の同級生のほとんどは、生きのまま焼かれていきました。今でも私の耳には、彼らがお母さんや神様に助けを求めている声が聞こえてきます。生き残った2人の少女と共に逃げていく際、私たちは、幽霊のような姿がゆっくりと、市中心部から次々と足を引きずりながら向かってくるのを見ました。恐ろしいほどに傷ついた人々で、爆風により衣服は破け、裸になっている人もいました。血を流し、やけどを負い、黒焦げになり、腫れ上がっていました。体の一部がない人、肉や皮が骨から垂れ下がっている人、飛び出た眼球を手で持っている人や、腹部が破裂し腸が飛び出ている人もいました。

その後、週、月、年を追うごとに、さらに数千人の人たちが命を失いましたが、その多くは、放射線被曝の後障害により、突然に不可解な形で亡くなっていきました。今日でもまだ、放射線は、生存者たちの命を奪っています。亡くなった一人ひとりに名前がありました。皆、誰かに愛されていました。

灰の中から生き残った私たちは、自らの生存と暮らしの立て直しのために闘ってきました。そのなかで私たち被爆者は、このように非人道的、非道徳的で残酷な私たちの体験を他の誰一人にもくり返させてはならず、核の危険という現実を世界に警告し、核兵器が絶対悪であることを人々に理解してもらうことこそ自らの使命であると確信したのです。

核兵器を偶発的であれ、意図的であれ、再び使われるより前に廃絶することこそ、私たちに

とっての道徳的な要請です。その確信と共に、私たちは核兵器の完全廃絶を 70 年以上にわたって世界中に訴えてきました。

安倍総理、核戦争の業火を経験した唯一の国の指導者として、核兵器廃絶に向けて真の一步を踏み出してください。

原爆被爆者たちは、日本政府が核兵器禁止条約の交渉に参加せず、同条約に署名・批准することを拒んでいることについて、たいへん当惑しています。核兵器廃絶を 70 年以上にわたり訴えてきた被爆者の一人として、個人として裏切られた気持ちです。日本が、自国の安全のためには核兵器による保護が必要であると恥ずかしげもなく公言し続けることは、核兵器廃絶のために行われているあらゆる努力を台無しにするものです。私たちは、このような状況が続くことを看過できません。

日本政府は核軍縮のための「橋渡し」になると言っていますが、核兵器禁止条約の価値を是認すらせず、むしろ核保有国の立場を代弁する姿勢をみせています。悲劇的にも、日本政府は核保有国の共犯者になってしまっています。それは、日本の世論に公然と背くものであるばかりか、国際社会における日本の信用を失わせる可能性さえあります。日本は、自らの歴史的、世界的、道徳的責任を自覚し、核兵器に依存した政策と決別しなければなりません。日本は、核兵器がもたらす破滅的な危害をふまえ、緊急の事項として核兵器の廃絶を確約しなければなりません。

安倍総理、被爆 75 年にあたりこれまでの政策を転換して核兵器禁止条約への署名・批准に向かつて取り組むと宣言すれば、それはあなたが遺した最大の功績として日本と世界の歴史に刻まれることでしょう。

広島・長崎への原爆投下の犠牲者と生存者を代表し、また、世界中の核実験によって被害を受けてきた先住民族をはじめとする人々を代表して、総理が有意義で効果的な行動を取ることを強く求めます。

敬具

サーロー節子

核兵器廃絶国際キャンペーン (ICAN)